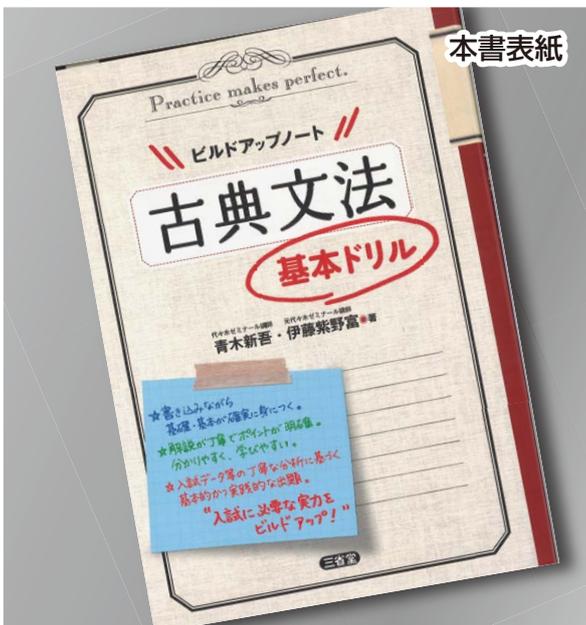


古典文法基本ドリル

- 対象** 高校生・理系国立大学受験生
- 仕様** B5判 2色／本誌 80p 解答解説 72p
- 作業内容** 企画・デザイン・執筆者手配・原稿執筆・編集校正・DTP組版・イラスト
- 作業期間** 6か月



本書表紙



この仕事のポイント

- 理系の受験生に古典文法をすんなりと学習させられる教材に仕上げる。
- 類書を研究し、今までの経験をもとに、紙面展開・問題内容・噛み砕いた解説を提案。

10 助動詞⑦ む・むず・じ

意味の分け方を考えよう。

確認問題

問一 次の「む」の活用形を答えなさい。

① 「いさ、かいてもちせむ」と言ひけるを。(宗法保物語)

② 花を見てこそ知りたまはぬ。(宗法保物語)

③ これを物ぬきてとせざらむ者は、(宗法保物語)

④ つらきをも思ひ知りけりといえむは。(宗法保物語)

	意味		活用形

↑ 難易度は30～31ページ

確認問題

問二 次の「むず」の活用形を答えなさい。

① 推量「さういふ」

② 意志「さういふ」

③ 勧告・勸誘「さういふ」

④ 婉曲「さういふ」

⑤ 仮定「さういふ」

	意味		活用形

確認問題

問一 「む」の活用形を答えなさい。

	意味		活用形

確認問題

問二 次の「むず」の活用形を答えなさい。

	意味		活用形

確認問題の解答

問一

基本形	未然形	連体形	終止形	バダシ	命令形
む	む	む	む	む	む

問二

基本形	未然形	連体形	終止形	バダシ	命令形
むず	むず	むず	むず	むず	むず

④ 打消意志・終止形

・基礎 + 問題で構成。
・すっきりとした紙面になるよう考慮。

古典文法基本ドリル



心がけたこと①

- 類書研究をして、「古典文法の基礎基本」をコンパクトにまとめるように心がけた。

基礎をまとめた本文例

16 助動詞⑬ まほし・たし・ごとし

問一 次の「」に助動詞「まほし」か「たし」のいずれかを適当な形に活用させて入れなさい。

① 少しのことにも、先達はあら 事なり。
② 敵に会ってこそ死に 。
③ うたて、け近く聞か ず。
④ 近う参つて見参にも入り れども。

問二 次の「」の「」が、題意の助動詞の一部であるものはどれか。ア～エから適当なものを答えなさい。

ア 表は疾「」と見るしるしなし。
イ 言葉多からぬこそ、嫌かず向かはまほし「」。
ウ 夕霧たらわたりて、い水じうをかし「」れば。
エ 冬枯れの気色こそ、秋にはをさをさをまほし「」れば。

問一 次の「」の助動詞「まほし」か「たし」のいずれかを適当な形に活用させて入れなさい。

① 走りて坂を下る輪「」と見えゆ。
② 相歌・管弦、往主要集「」の抄物を入れたり。

問二 次の「」の助動詞「まほし」か「たし」のいずれかを適当な形に活用させて答えなさい。

① 花といはば、かくそ句は「」しな。
② 墨所におちては死に「」す。
③ つひに本意の「」あひだけり。

10 助動詞⑩ む・むず・じ

問一 次の「」の助動詞「む」について、意味と活用形を答えなさい。

① 「いざ、かもちりせむ」と言ひけるを、
② 花を見てこそ知りたまはむ。
③ 花に物を見てとらせむの言はむ。
④ つらさを思ひのけと見むは、

問二 次の「」の助動詞「むず」について、意味と活用形を答えなさい。

① かのもとの因より迎へ人々まで来むず。
② 足の向きたらむ方へ往むず。
③ 東の向きたらむ方へ行むず。

問一 次の「」の助動詞「むず」について、意味と活用形を答えなさい。

① 主語が二人称の「人々」なので、終止形と終止形となる。
② 会話文中で敬語が使われていないので、省略された主語が「わたし」である。よって意味・文法にあり、終止形となる。

分かりやすい設問例

解答ページ例

16 助動詞⑬ まほし・たし・ごとし

問一 次の「」に助動詞「まほし」か「たし」のいずれかを適当な形に活用させて入れなさい。

① 少しのことにも、先達はあら 事なり。
② 敵に会ってこそ死に 。
③ うたて、け近く聞か ず。
④ 近う参つて見参にも入り れども。

問二 次の「」の「」が、題意の助動詞の一部であるものはどれか。ア～エから適当なものを答えなさい。

ア 表は疾「」と見るしるしなし。
イ 言葉多からぬこそ、嫌かず向かはまほし「」。
ウ 夕霧たらわたりて、い水じうをかし「」れば。
エ 冬枯れの気色こそ、秋にはをさをさをまほし「」れば。

問一 次の「」の助動詞「まほし」か「たし」のいずれかを適当な形に活用させて入れなさい。

① 走りて坂を下る輪「」と見えゆ。
② 相歌・管弦、往主要集「」の抄物を入れたり。

問二 次の「」の助動詞「まほし」か「たし」のいずれかを適当な形に活用させて答えなさい。

① 花といはば、かくそ句は「」しな。
② 墨所におちては死に「」す。
③ つひに本意の「」あひだけり。

10 助動詞⑩ む・むず・じ

問一 次の「」の助動詞「む」について、意味と活用形を答えなさい。

① 「いざ、かもちりせむ」と言ひけるを、
② 花を見てこそ知りたまはむ。
③ 花に物を見てとらせむの言はむ。
④ つらさを思ひのけと見むは、

問二 次の「」の助動詞「むず」について、意味と活用形を答えなさい。

① かのもとの因より迎へ人々まで来むず。
② 足の向きたらむ方へ往むず。
③ 東の向きたらむ方へ行むず。

問一 次の「」の助動詞「むず」について、意味と活用形を答えなさい。

① 主語が二人称の「人々」なので、終止形と終止形となる。
② 会話文中で敬語が使われていないので、省略された主語が「わたし」である。よって意味・文法にあり、終止形となる。

解説には出典を明記

① 主語が二人称の「人々」なので、終止形と終止形となる。
② 会話文中で敬語が使われていないので、省略された主語が「わたし」である。よって意味・文法にあり、終止形となる。

16 助動詞⑬ まほし・たし・ごとし

まほし 活用形の表形に接続
 基本形 未然形 連体形 終止形 連体形 終止形 終止形 命令形
 まほし まほし せまほし せまほし せまほし せまほし せまほし せまほし
 たし 活用形の連体形に接続
 基本形 未然形 連体形 終止形 連体形 終止形 終止形 命令形
 たし たし せたし せたし せたし せたし せたし せたし
 ごとし 活用形の連体形に接続
 基本形 未然形 連体形 終止形 連体形 終止形 終止形 命令形
 ごとし ごとし せごとし せごとし せごとし せごとし せごとし せごとし

比較とは、あるものを他のものと比べること。たし、むずは意味はほぼ「たし」と同じと見なす。

① 体言、活用形の連体形、格助詞「の」「が」に接続
 基本形 未然形 連体形 終止形 連体形 終止形 終止形 命令形
 たし たし せたし せたし せたし せたし せたし せたし
 ごとし ごとし せごとし せごとし せごとし せごとし せごとし せごとし

② 例示 (例示) (例示) (例示) (例示) (例示) (例示) (例示) (例示)

心がけたこと②

- 苦手意識をもたせないような、さっぱりとした紙面とし、書き込みながら学べる教材になるように工夫した。

心がけたこと③

- 例文や設問に取り上げる「古文」は、わかりやすいものとし、解説には出典を明記。古文への興味が広がるように配慮した。

EDIT エディットの強み

- 各種大学受験の予備校講師とのつながりを生かし、大学受験ものに関する「書籍の原稿執筆」「模試の校正・校閲」などの対応ができます。

- 国語以外に、高校生対象の教材・問題集など、企画構成・デザイン・原稿執筆・編集校正・DTP組版・図版イラスト作成まで一式のご依頼が可能です。

16

助動詞 ⑬

まほし・たし・ごとし

「まほし」「たし」「ごとし」の接続を区別して覚えよう。



まほし 活用語の未然形に接続

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
まほし	(まほしく)	まほしく	まほし	まほしき	まほしけれ	○
	まほしから	まほしかり		まほしかる		

*カリ活用 ↓ 直下に助動詞がつく場合に用いる。

意味 (1) 願望 (...タイ)

たし 活用語の連用形に接続

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
たし	(たく)	たく	たし	たき	たけれ	○
	たから	たかり		たかる		

*カリ活用 ↓ 直下に助動詞がつく場合に用いる。

意味 (1) 願望 (...タイ)

ごとし 体言、活用語の連体形、格助詞「の」、「が」に接続

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
ごとし	(ごとく)	ごとく	ごとし	ごとき	○	○

意味 (1) 比況 (...ヨウダ...ニ似テイル)

(2) 例示 (例エバ) ...ヨウダ

比況とは、あるものを他のものにとえることだよ。ただし、細かい意味は気にせず、「ようだ」と訳したらよいよ。



確認問題

問一 「まほし」「たし」「ごとし」の活用表を完成させなさい。

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
まほし						
たし						
ごとし						

問二 次の の助動詞「まほし」「たし」「ごとし」を適当な形に活用させて答えなさい。

- ① 花といはば、かくこそ句は な。 (源氏物語)
- ② 悪所におちては死に ず。 (平家物語)
- ③ つひに本意の あひにけり。 (伊勢物語)

③	①
	②

10 助動詞⑦ む・むず・じ

練習問題の解答

問一 次の「部の助動詞「む」について、意味と活用形を答えなさい。

- ① 「いざ、かいもちひせむ」と言ひけるを、
〔さあ、ぼたもちをつくらう〕と言ったので、
(宇治拾遺物語)
- ② 花を見てこそ帰りたまはめ。
桜を見てから帰りなざるのがよい。
(宇津保物語)
- ③ これに物ぬぎてとらせざらむ者は、
これに服を脱いで与えないような者は、
(大和物語)
- ④ つらさをも思ひ知りけりと見えむは、
薄情であることがわかったと思えば、
(源氏物語)

	意味	活用形
①	意志	終止形
②	適当・勧誘	已然形
③	婉曲	連体形
④	仮定	連体形

問二 次の「部の助動詞「むず」について、意味と活用形を答えなさい。

- ① かのもとの国より迎へに人々まうで来むず。
元々いたあの国から迎へに人々が参上してくるだろう。
(竹取物語)
- ② 足の向きたらむ方へ往なむず。
足の向いたような方へ行こう。
(竹取物語)

解説

問一 ポイント 「む」の意味の識別と活用形

- ① 「いざ」とあるので、省略されている主語が、一人称の「わたし(たち)」とわかり、意志。文末にあるので、終止形となる。
- ② 会話文中で尊敬語が使われているので、省略された主語が、二人称の「あなた」とわかり、適当・勧誘。係助詞「こそ」を受けて、「む」が已然形の「め」になっている。
- ③ 直下に体言の「者」があるので、婉曲。同じく直下が体言なので、連体形となる。
- ④ 直下に係助詞の「は」があるので仮定。文が続いているので、終止形ではなく、連体形となる。

問二 ポイント 「むず」の意味の識別と活用形

- ① 主語が三人称の「人々」なので、推量。文末にあり、終止形となる。
- ② 会話文中で尊敬語が使われていないので、省略された主語が、「わたし」である。よって意志。文末にあり、終止形となる。